

大阪歴史科学協議会 11 月例会（ハイブリッド開催）

百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録と陵墓問題を考える

2019年7月、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録された際、宮内庁の陵墓呼称（例えば大山古墳は「仁徳天皇陵古墳」）のみが構成遺産名とされました。このことは、戦前の反省に立った戦後の史料批判に基づく歴史学・考古学の蓄積とは相容れないものであり、また40年を超える「陵墓限定公開」運動の内実を問い直さざるを得ない事態だといえるでしょう。今後の教科書記述を含めた歴史認識への影響も懸念されます。現在、起きていること背景としては、2000年代半ば以降の「観光立国」推進のなかで生じた事態——特に、近年の日本遺産認定（2015年度開始）や、観光への「活用」を意図した文化財保護法「改正」（2019年4月）などを合わせて考える必要があるでしょう。しかしながら、こうした事態は、一般市民だけでなく、研究者の間でも十分に認識されていないというのが実態ではないでしょうか。

そこで、11月例会では、これまで継続して陵墓問題に関わり積極的に発言してこられた今尾文昭氏、久世仁士氏、高木博志氏のお三方にご報告をお願いしました。百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録と陵墓問題に関わる、広く一般市民も含めた問題意識の共有の場となれば幸いです。

会員の皆さんや多くの市民の皆さんの積極的なご参加を期待しています。

日時 11月12日(土) 13:30～17:00

会場 大阪公立大学 杉本キャンパス 1号館・講堂

(JR 阪和線「杉本町(大阪市立大学前)駅」下車、東口すぐ。キャンパス MAP は裏面を参照。
地下鉄御堂筋線「あびこ駅」下車、4号出口より南西へ徒歩約15分。)

内容

報告① 久世仁士氏（文化財保存全国協議会常任委員）

「百舌鳥・古市古墳群—世界遺産登録と残された課題」

報告② 今尾文昭氏（関西大学非常勤講師）

「「陵墓かくし」と、学びの陥穽」

報告③ 高木博志氏（京都大学人文科学研究所）

「近代天皇制と陵墓問題」

参加費 300円（会員は無料）

*参加ご希望の方は、①参加申し込みフォーム（<https://forms.gle/A2sq326qaphMPafV9> 大阪歴史科学協議会ホームページにも掲載の予定）からお申し込みいただくか、②大阪歴史科学協議会のメールアドレス（osaka_rekkakyo@yahoo.co.jp）に、必要な情報（氏名、メールアドレス、会員・非会員の別、ご所属、参加形態）を添えてEメールでお申し込み下さい。例会前日まで、zoom参加予定の方は、ZoomのURL等と報告レジュメをお届けします（ご提供の個人情報に例会終了後、破棄します）。

***会員・非会員を問わず、上記①か②の方法で（対面参加予定者も含めて）事前登録をお願いします。**

☆次回の例会は、12月11日（日）に関西学院大学梅田キャンパスで開催します（対面開催を予定。ハイブリッドによる配信は未定）。近年公刊され、注目を浴びている田島道治「昭和天皇拝謁記」を取り上げ、昭和天皇の戦争責任や戦争認識、あるいは戦後の象徴天皇制をめぐる議論します（報告者は瀬畑源氏）。こちらも含めてご参加ください。

大阪歴史科学協議会 事務局

問い合わせ先：osaka_rekkakyo@yahoo.co.jp

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪公立大学大学院文学研究科 佐賀朝研究室 気付

Web Site: <http://osakarekkakyo.blog.fc2.com/> / 口座番号 00910-7-307966



大阪公立大学杉本キャンパス キャンパス MAP

会場となる講堂のある1号館は上記の**1**の建物です。